

サブシステム確認書のワープロ化

元明星・元 J A X A 佐藤 義弘

今で言う I C D の事を、G E O T A I L 当時では S / S 確認書と呼んでいました。当時は当然の事ながらワープロ化できず、手書きで作成していましたが、G E O T A I L が始まって初めてワープロ化しました。

それ以前はパソコン上でのワープロ機能は無く、ワープロ専用器で書いていましたが、今回はパソコン上に「一太郎」と言うワープロソフトを使用する事ができました。お陰で作成・追加・削除・変更等の作業効率は格段に向上しました。因みにインタフェース回路は、外字で回路シンボルを登録しておいてこれを罫線でつなぐ事で対応しました。

この様に作成された S / S 確認書は、作成者のサインのある原書を N E C のシステム担当者に郵送します。今の様にネットの添付ファイルで送る事ができなかったのです。こんな事がありました。いよいよ S / S 確認書の送付納期が間に合わなくなったのです。そこで私はプリントアウトした書類を持って鴨居に行き、N E C 横浜事業所の守衛所で N E C の五十嵐さんとお会いして、渡した記憶があります。

S / S 確認書以外に原価見積書と試験手順書がありますが、これも当時の表計算ソフト「マルチプラン」を使用しました。文書の I T 化は G E O T A I L から始まったと思います。